

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度		S46~	
総合計画	大項目	基本目標	04 もてなしの心とたくましさのあるまちづくり
	中項目	基本施策	03 個性あふれる観光のまちづくり
	小項目	施策	01 観光
事務事業名		04	観光施設維持管理事業
根拠法令・例規等		問	担当課(室) 商工観光課
職・氏名		職	観光係長 山台 智子
電話		電	64-1832

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	観光客
目的(何のために)	市内の観光施設を管理する
行政活動(どのような方法で)	備前地区一閑谷学校駐車場等管理、伊部駅南ふるさと交流センター管理運営、大滝山下水道管理組合負担金事業、日生地区一級防護網設置、楯越山管理、観光トイレ等管理、古代体験の郷まほろば、観光情報センター、ふれあいの館かぜまち、ふれあい交流館しおまち、吉永地区一八塔寺山荘、大池緑地公園管理運営、和意谷、八塔寺ふるさと村等、ダム公園等管理、郷土料理館もやい茶屋の管理運営
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	利用者数の増を図る

事業の実績						
活動	実施項目		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	管理施設数(委託)		施設	12	12	12
	管理施設数(直営)		施設	1	1	1
	利用者数		人	224,536	244,638	249,102

実績	直接事業費		千円	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	必要人員	人件費		1.24人	1.06人	0.85人
	事業費計		千円	71,594	70,452	64,617
	財源	国	支出金	3,584	3,584	3,584
		受	益者負担	37,416	35,858	33,843
繰		入金債				
市		債				
その他()						
一般財源			30,594	31,010	27,190	
受益者負担比率		%	52.3%	50.9%	52.4%	

結果指標①	結果指標名		単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	利用者数		説明			
	結果指標量	人	224,536	244,638	249,102	
	対前年比	%	-	109.0%	101.8%	
	活動コスト	円	71,594,000	70,452,000	64,617,000	
単位当たりコスト		319	288	259		

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
1施設利用者数	目標値(A)	18,000	18,000	18,000	18,000
	実績値(B)	17,272	18,818	19,162	到達目標年度
	達成率(B/A)	95.96%	104.55%	106.45%	毎年
成果指標設定の考え方・式や説明					
利用者数/管理施設数(13)					

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	観光施設は、観光推進をするにあたっては必要不可欠な施設である。
	市民ニーズ	<input checked="" type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い 説明 観光施設の維持管理は、観光推進をする上で最低限すべきことである。	
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託等)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input checked="" type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	受託団体が適正な管理を行っているか確認する。
	手	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input checked="" type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input checked="" type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	
有効性の評価	目的達成度		有効性評価<A~E> C 判定理由・課題認識
	市民参画度		観光施設は、観光振興において欠くことのできない施設であり、観光客のおもてなしの環境づくりが必要である。

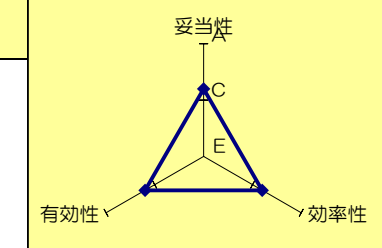
事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

平成21年度の状況		結果指標量①		結果指標量②		成果指標量	
目標値	結果指標量①	230,000		20,000			
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	費用対効果を考慮しながら、施設の維持管理に勤めるべきである。						

総合評価		評価区分<A~E>
観光施設の適正な維持管理は、観光推進の上で重要なことである。観光客の満足度も考慮しながら、費用対効果による効率的な管理を行う必要がある。		C



平成22年度以降の方向性・内容		結果指標量①		結果指標量②		成果指標量	
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	厳しい予算の中、費用対効果を検証しながら施設の維持管理に勤めるべきである。						

改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
	効率性	受託団体の効率的な運営を指導する。	随時	効率的な財政支出